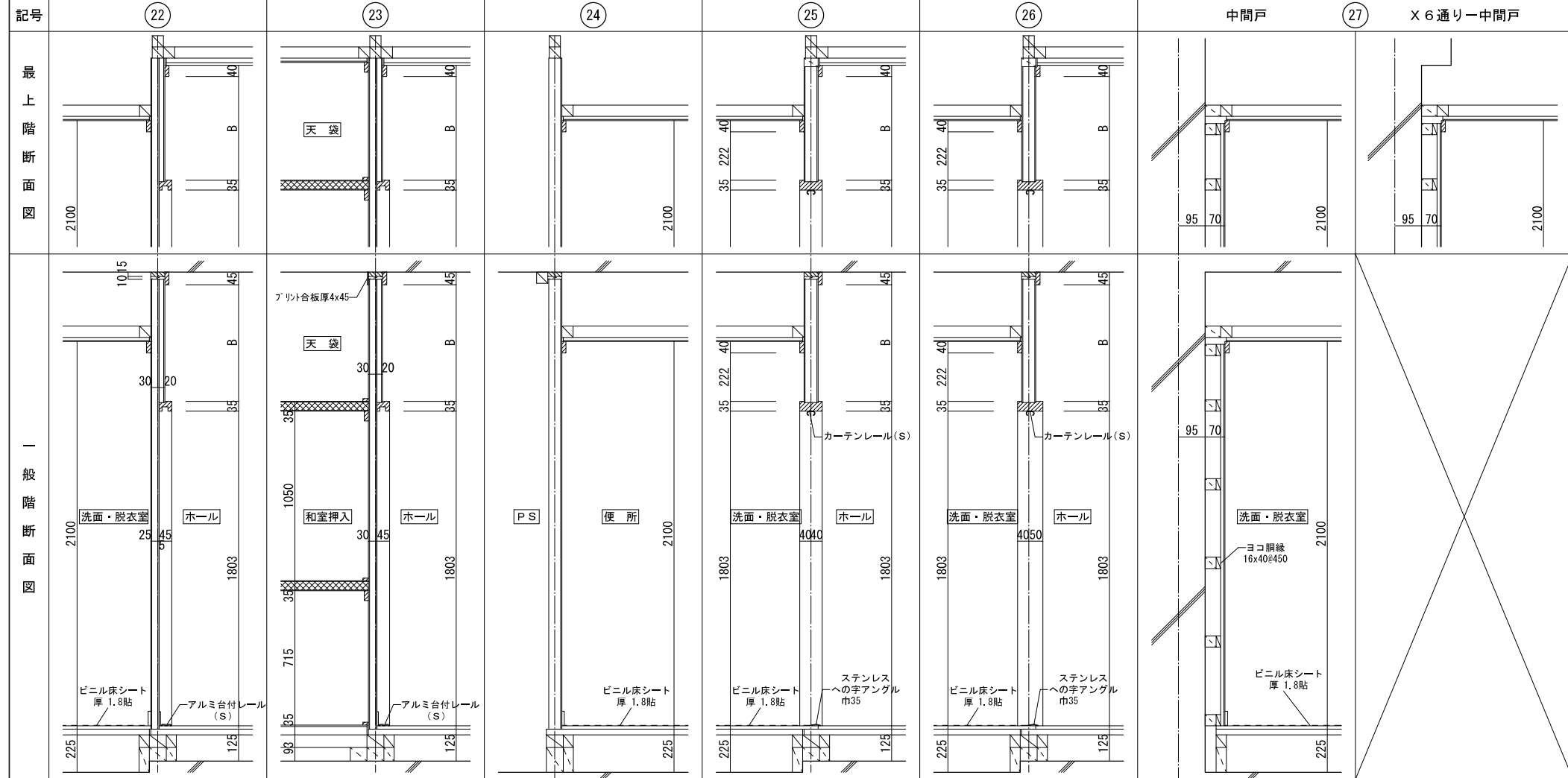
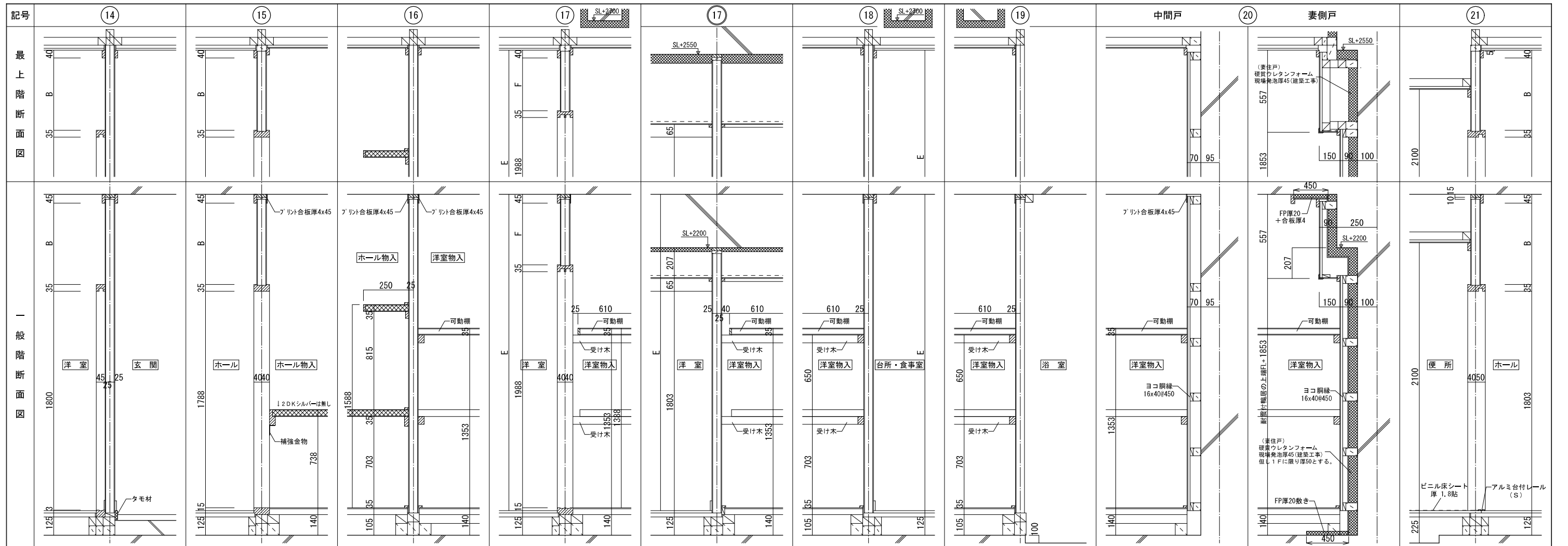


スラブ厚250m/mに対する高さ寸法

階高	A	B	C	D	E	F	G	H	
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	525	135
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	520	130

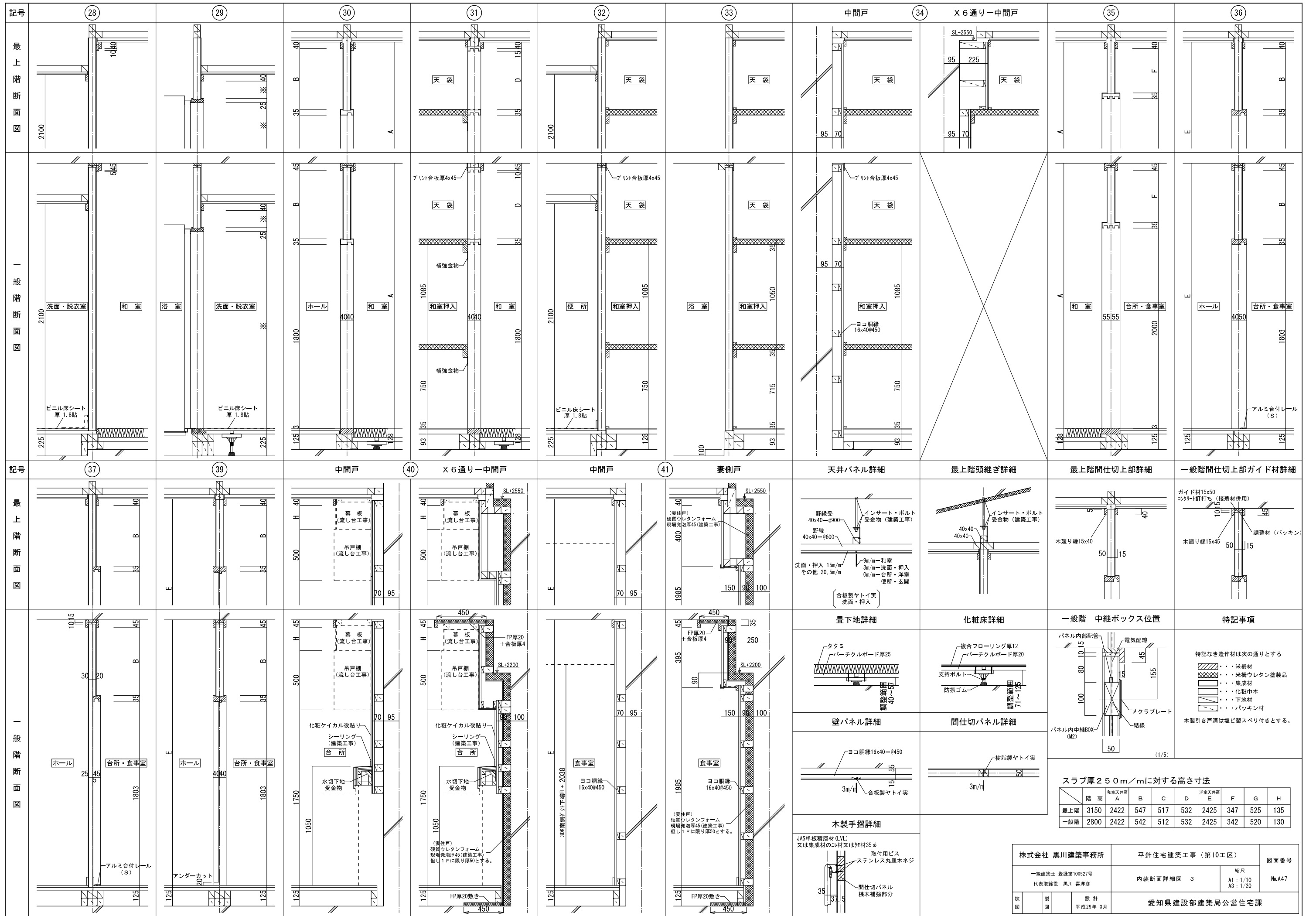
株式会社 黒川建築事務所		平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第100527号 代表取締役 黒川 善洋彦		内装断面詳細図 1		縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20
No. A45	愛知県建設部建築局公営住宅課			



スラブ厚250mm/mに対する高さ寸法

階高	和室天井高	A	B	C	D	E	F	G	H
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	525	135
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	520	130

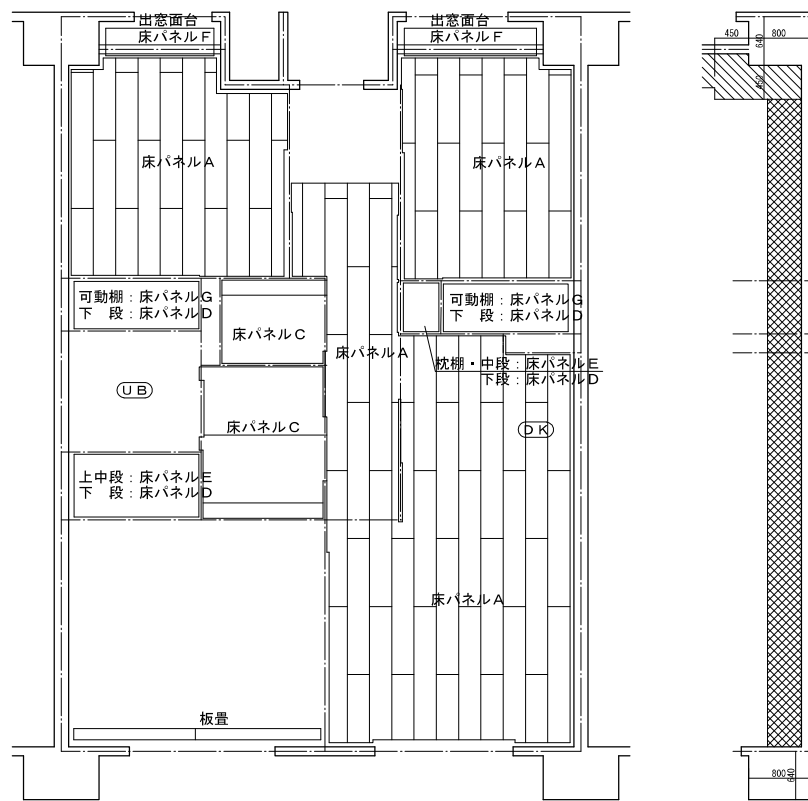
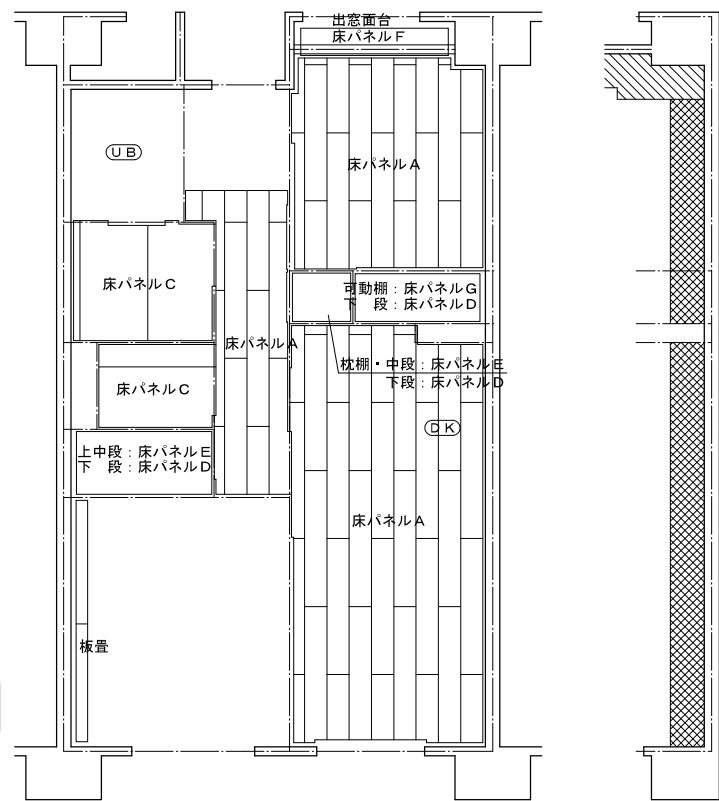
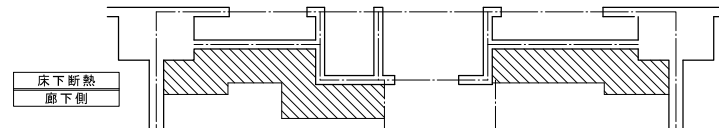
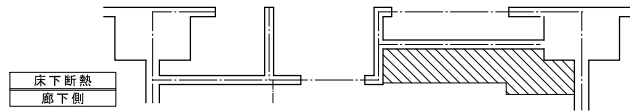
株式会社 黒川建築事務所		平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第100527号 代表取締役 黒川 善洋彦		内装断面詳細図 2	縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20	No.A46
検図	製図	設計 平成29年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



株式会社 黒川建築事務所		平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第100527号 代表取締役 黒川 善洋彦		内装断面詳細図 3		縮尺 A1: 1/10 A3: 1/20
検図	製図	設計 平成29年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

階高	和室天井高 A	B	C	D	洋室天井高 E	F	G	H
最上階	3150	2422	547	517	532	2425	347	525
一般階	2800	2422	542	512	532	2425	342	520

- 特記なき造作材は次の通りとする
- 米欄材
  - 米欄ウレタン塗装品
  - 集成材
  - 化粧巾木
  - 下地材
  - パッキン材
- 木製引き戸溝は塩ビ製スベリ付きとする。



- 支持脚 (30-85) を示す。
- 支持脚 (50-185) を示す。
- 支持脚 (5-48) を示す。
- 流し台下のみ支持脚 (30-73) を3ヶ補強として拾う。
- 便所床のみ支持脚 (50-148) を2ヶ補強として拾う。
- 隙根太 36×45 を示す。
- 敷居下・パネル受け・パネル掛け 45×60 を示す。
- の斜線は共用廊下側の居室・DK・物入類のみ  
F P厚20 (保温板3種b) 敷き込み範囲を示す。  
断熱範囲は壁断熱吹き付け面より450mmとする。
- の斜線は妻側の居室・DK・物入類のみ  
F P厚20 (保温板3種b) 敷き込み範囲を示す。  
断熱範囲は壁断熱吹き付け面より450mmとする。
- の斜線はパーチクルボードパラフィン処理範囲を示す。  
パラフィン処理は洗面・便所のみを範囲とする。

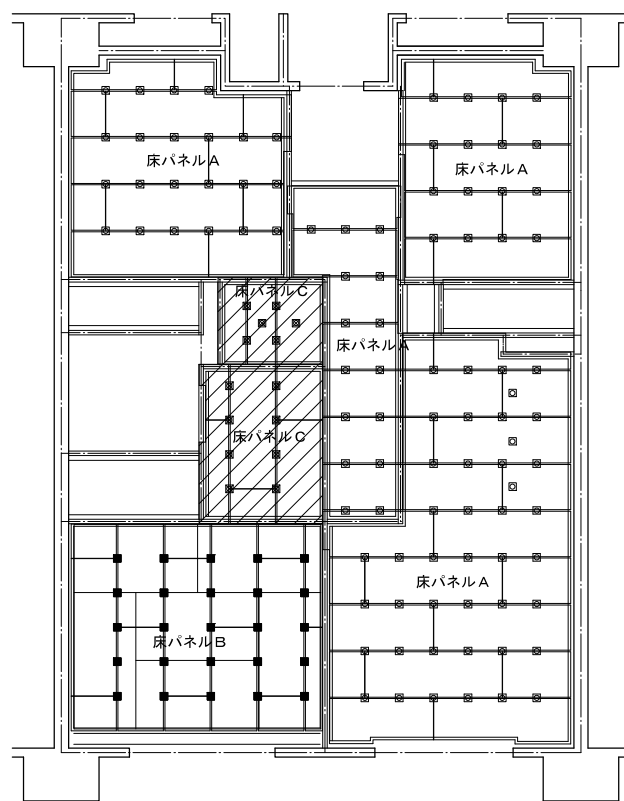
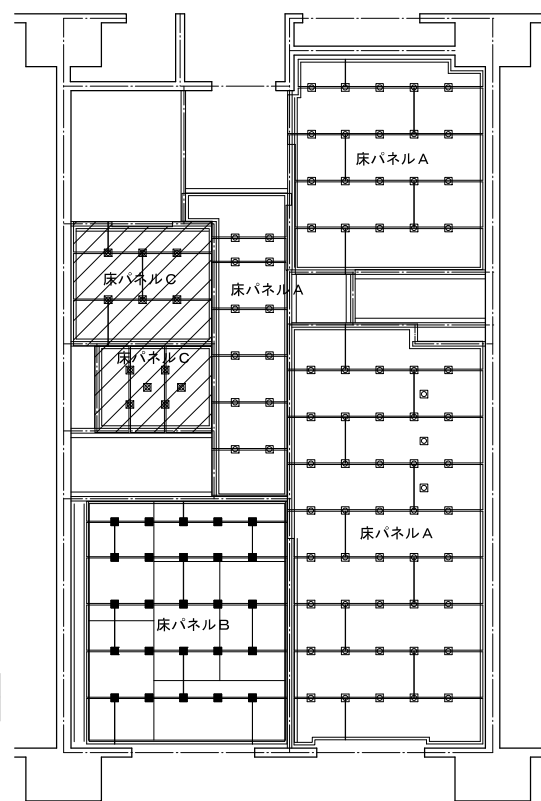
床伏図  
2DKタイプ

床伏図  
3DKタイプ

床下断熱  
DK側妻

床下断熱  
DK側妻

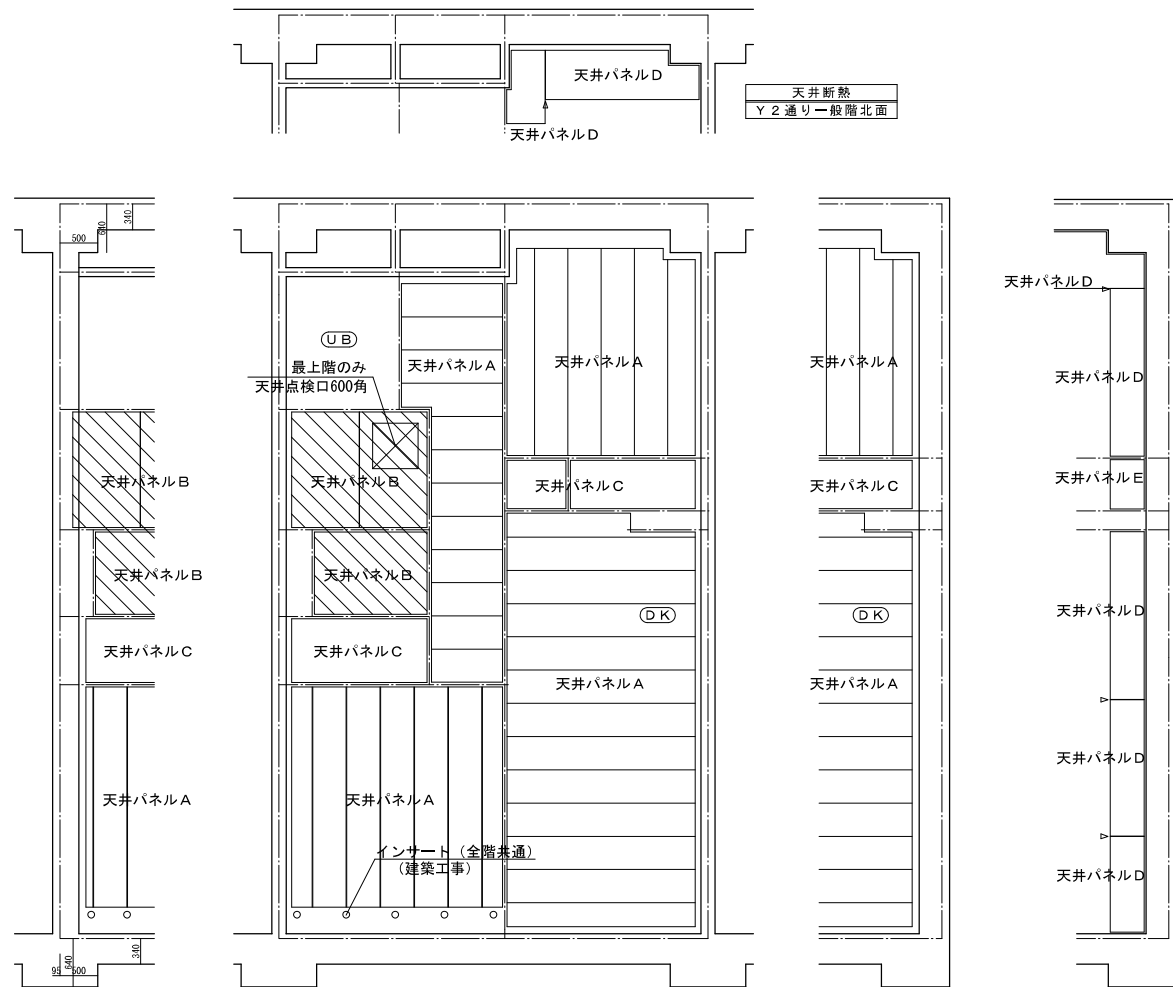
表面材		
床パネルA	複合フローリング (ナラ・タモ化粧)	712.0
	パーチクルボード	720.0
床パネルB	パーチクルボード	725.0
	ビニル床シート	71.8
床パネルC	防虫合板	712.0(T1)
	パーチクルボード (パラフィン処理)	720.0
床パネルD	ラワン合板	75.5(T2)
床パネルE	MDF	72.7
床パネルF	ポリエステル化粧合板	74.0(T1)
床パネルG	MDF	74.0



床下地伏図  
2DKタイプ

床下地伏図  
3DKタイプ

株式会社 黒川建築事務所		平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第100627号	代表取締役 黒川 高洋彦	2DK・3DK 内装床・床下地伏図	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	No. A48
検図	製図	設計 平成29年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

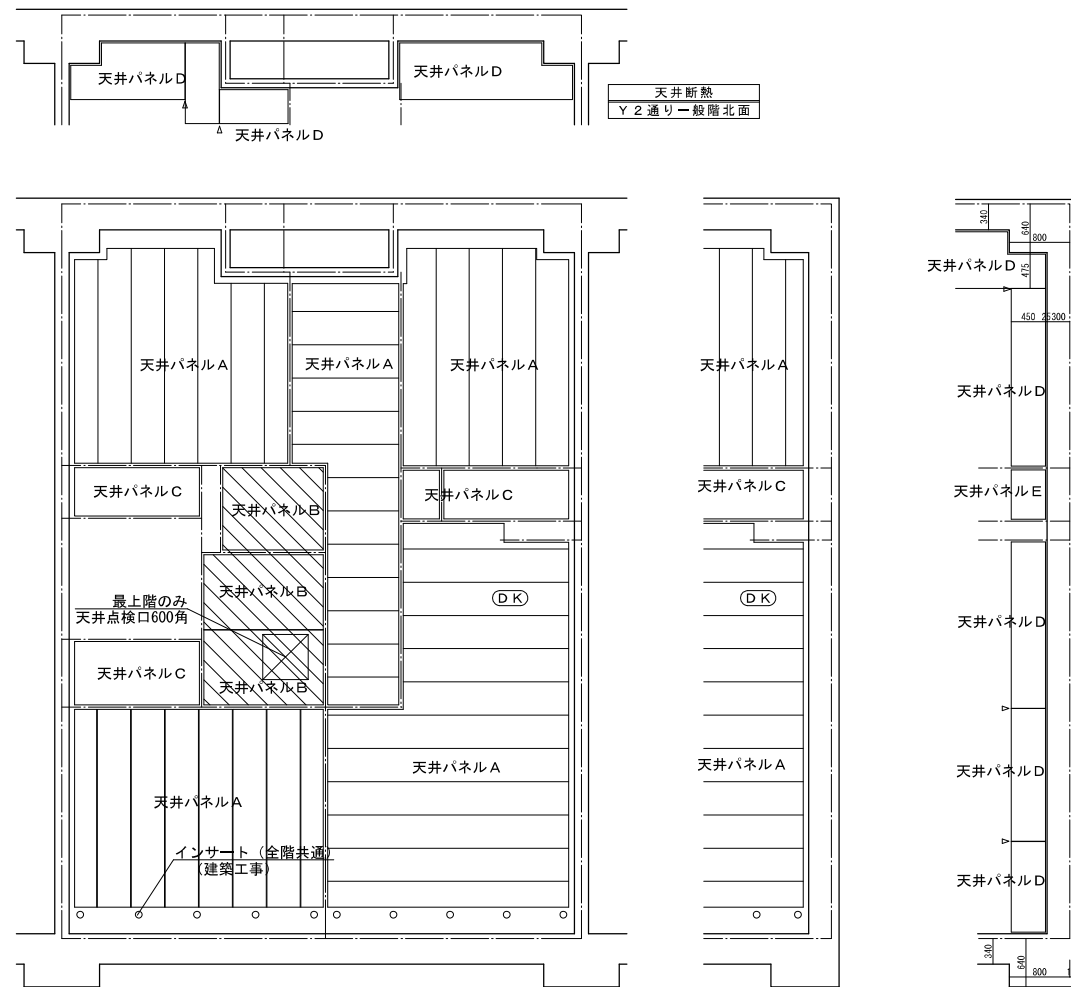


天井伏図(最上階)  
X6通り中住戸

天井伏図(最上階)  
2DKタイプ

天井伏図(最上階)  
DK妻住戸

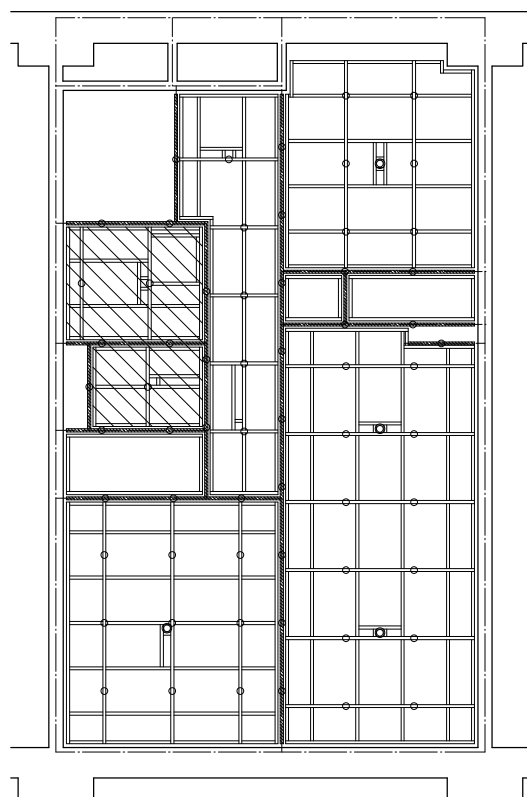
天井断熱  
一般階DK側妻



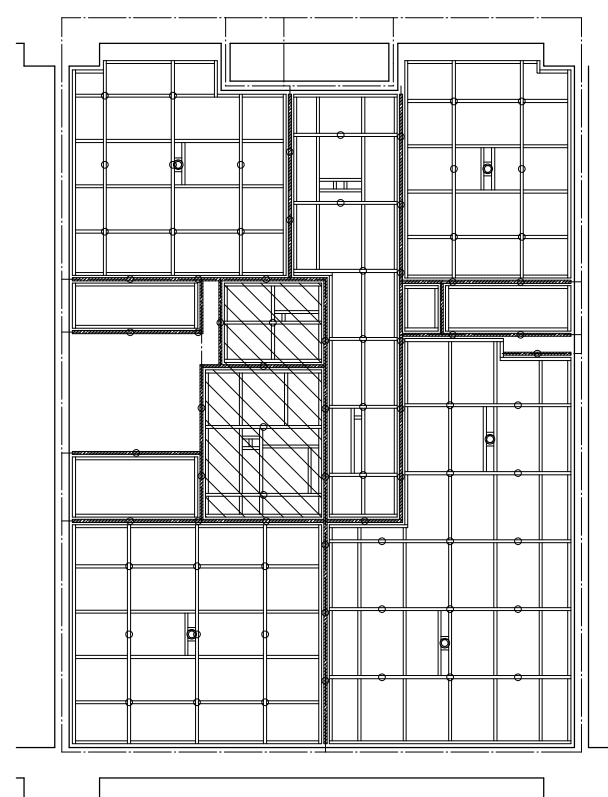
天井伏図(最上階)  
3DKタイプ

天井伏図(最上階)  
DK妻側住戸

天井断熱  
DK側妻



天井下地伏図(最上階)  
2DKタイプ



天井下地伏図(最上階)  
3DKタイプ



- 野縁、野縁受 40×40
- 頭つなぎ 40×40
- 吊りボルトφ9φ及びインサート(建築工事)
- ◎ 照明器具用吊りボルトφ9φ及びインサート(電気工事)
- 斜線範囲は各階共通を示す。

表面材		
天井パネルA	化粧石膏ボード	79.5
天井パネルB	塩ビ合板	74.0(T2)
天井パネルC	プリント合板(押入)	74.0(T2)
天井パネルD	押出法ポリスチレンフォーム20dの上 ラワン合板(T1)4d防湿シート貼り	724.0
天井パネルE	押出法ポリスチレンフォーム20dの上 プリント合板(押入)(T2)4d	724.0

株式会社 黒川建築事務所		平針住宅建築工事(第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	2DK・3DK 内装天井・天井下地伏図	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	No. A49	
検 図	製 図	設 計 平成29年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

基本パネル標準図

名称	押入・物入 (床パネル・可動棚パネル)	押入・物入棚パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切小壁パネル	天井パネル (合板)	天井パネル (断熱入り)	天井パネル (石膏ボード)
厚さ	35	35	15・46・50	15・46・50	15	20+4	20.5
仕様	中棧はピッチ225mm以内とする	ペーパーハニカムコア 中棧はピッチ225mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ450mm以内とする	中棧はピッチ600mm以内とする
基本棧組図							

※ FP 厚20は保温板3種bとする。

分類	タオル掛け・紙巻き器補強	L型手摺補強	洗面化粧台・キャビネット補強	棚受け棧木補強	押入棚受け補強	縦I型手摺補強	将来対応手摺補強	吊り戸棚・水切下地補強	耐震付鴨居補強	PB入りパネル	炭化防止パネル	炭化防止パネル	クーラー補強
パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	間仕切パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル	間仕切パネル	壁パネル	間仕切パネル	壁パネル
基本補強図													

分類	差圧ダンパー補強 分電盤・ガスロック補強	スイッチ・コンセント補強 クーラーズリブ補強	換気スリーブ補強	電気BOX内蔵パネル	点検口付パネル	点検口付パネル	乾式二重床
パネル	壁パネル	壁パネル	壁パネル	間仕切パネル	天井パネル	壁・間仕切パネル	壁・間仕切パネル
基本補強図							




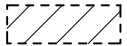

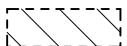
分類	アルミコーナー材	間仕切パネル用い実	タオル掛け	押入補強金物	水切下地受金物	アルミ台付レール (S)	への字アングル
付属部品細図							

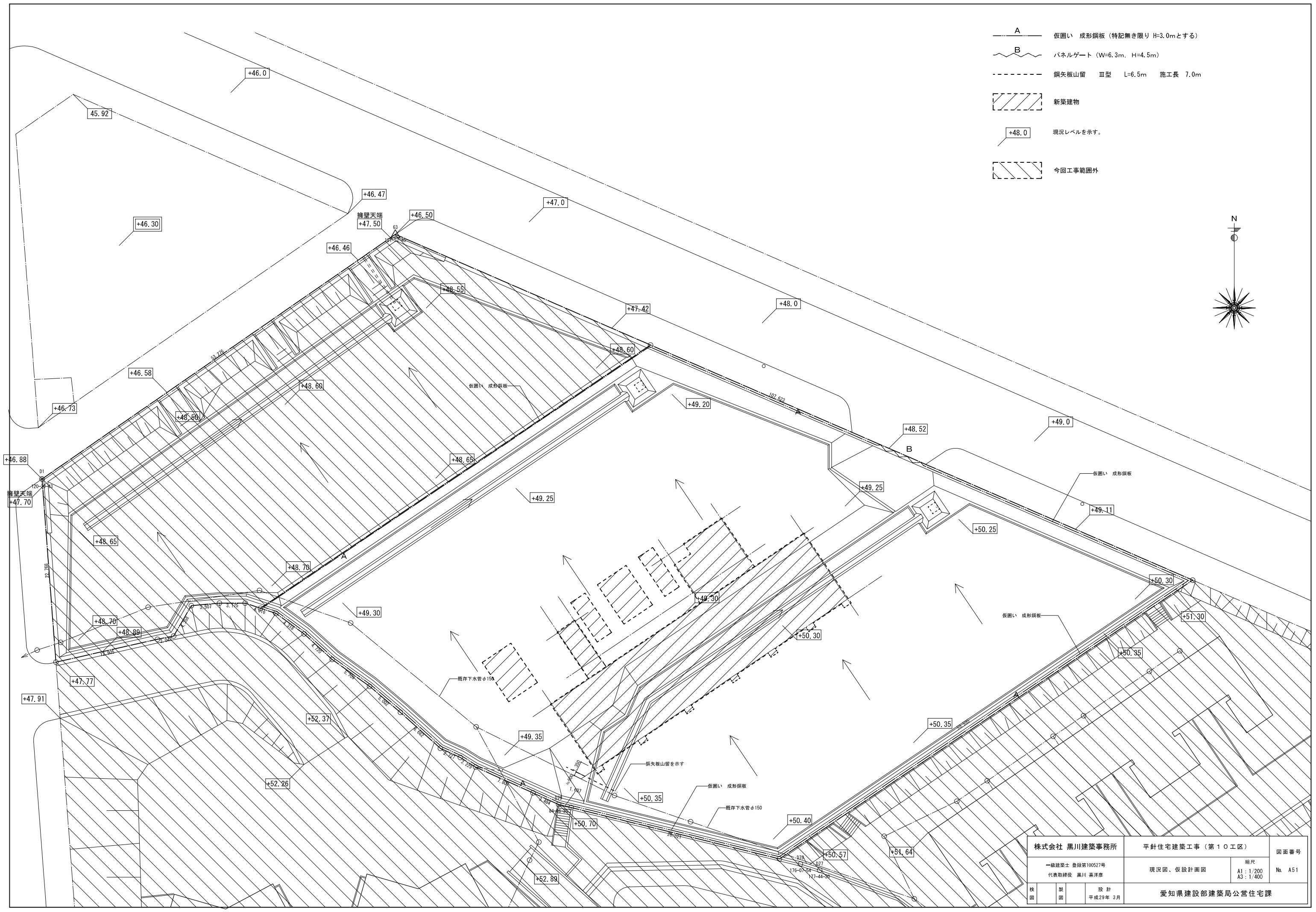
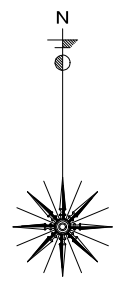
床・棚・壁・間仕切・天井パネルはF☆☆☆☆  
住宅部品表示ガイドラインに基づく「内装パネルのホルムアルデヒド発散区分表示」を示す。

- その他
1. 下地補強については、監督員と協議の上必要箇所へ施すこととする。
  2. 壁目地と天井目地は意匠性を考慮し出来る限り合わせる。
  3. 複合フローリング・合板はJASによる防虫処理合板認定品とする。

分類	塩ビコーナー材	C型カーテンレール	鴨居受金物	パネル止め金物	アルミ台付レール (W)	C型カーテンレール (W)
付属部品細図						

株式会社 黒川建築事務所		平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第100527号 代表取締役 黒川 善洋彦		基本パネル標準図	縮尺 A1: 1/40 A3: 1/80	No.A50
検図	製図	設計 平成29年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

-  A 仮囲い 成形鋼板 (特記無き限り H=3.0mとする)
-  B パネルゲート (W=6.3m, H=4.5m)
-  鋼矢板山留 III型 L=6.5m 施工長 7.0m
-  新築建物
-  +48.0 現況レベルを示す。
-  今回工事範囲外



株式会社 黒川建築事務所		平針住宅建築工事 (第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第100527号		現況図、仮設計画図		縮尺
代表取締役 黒川 善洋彦				A1: 1/200
				A3: 1/400
検	製	設	愛知県建設部建築局公営住宅課	
図	図	計	平成29年 3月	

1. 鉄筋の表示記号

Table with 4 columns: 鉄筋径 (Reinforcement diameter), 表示記号 (Symbol), 鉄筋径 (Reinforcement diameter), 表示記号 (Symbol). Rows include D10, D13, D16, D19, D22 with various symbols.

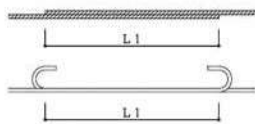
(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

2. 鉄筋の表示方式

Table with 2 columns: 表示方式 (Representation method), 表示例および内容 (Representation example and content). Rows show examples for n-Dm, Dm φL, Dm φL (D), Dm Dm' φL, and Dm φL 千鳥.

(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

・L1 (重ね継手) の長さは下図に示す値とする。



公共住宅標準詳細設計図集

3. 鉄筋の定着および継手長さ

Table with 7 columns: コンクリート設計基準強度 Fc (Concrete design strength), 鉄筋の種類 (Reinforcement type), フックの有無 (Hook presence), L1, L2, L3 (Small/Plate), L3 (Small/Plate). Rows specify values for different concrete strengths and reinforcement types.

継手の定着
・重ね継手と定着の長さは3の表を基準とする。ただし径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方の公称径による。
・図示するように末端のフックは重ね長さに算入しない。
・L1は重ね継手に下記及びの以外の定着長さを示す。
・L2は異形鉄筋で割断破壊のおそれのない箇所での定着長さを示す。
・L3は小梁及び床版の下端部の定着長さを示す。但し、基礎圧入、これを受ける小梁などは除く。

仕

棟

附

記

事

項

名

標

縮

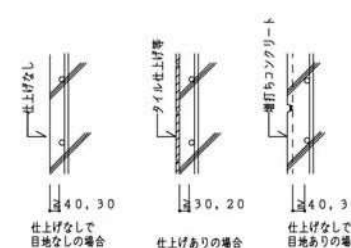
尺

共通事項 (その1)

R-1-1

1. 鉄筋のかぶりの厚さの最小値 (mm)

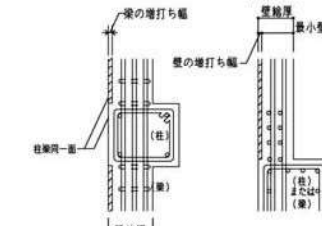
Table with 3 columns: 構造部分の種類 (Structural part type), 仕上げあり (Finish present), 仕上げなし (Finish absent), 全てのコンクリート (All concrete). Rows specify minimum cover values for different parts like columns, beams, and slabs.



(注) 1. 目地がある場合のかぶり厚さは、目地底からとする。
2. 上表は、構造用軽量コンクリートの場合も含む。
3. 仕上げありとは、モルタル塗り・タイル張り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗料等により鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。(右図のかぶり厚さを参照)
4. 床版、梁、基礎および壁で連続して接する部分のかぶり厚さには、接コンクリートの厚さを含まない。
5. 柱基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

2. 梁壁の増打ち幅

廊下で柱と梁が同一面ではたせる場合については、納り上、最も外側になる鉄筋のかぶり厚さを確保し、梁の増打ち幅を決定する。柱梁と壁との取合いについても同様である。(下図参照)



公共住宅標準詳細設計図集

仕

棟

附

記

事

項

名

標

縮

尺

共通事項 (その3)

R-1-3

1. 鉄筋の折曲げ規準

Table with 4 columns: 曲げ角度 (Bending angle), 折曲げ図 (Bending diagram), 全てのコンクリート (All concrete), 使用箇所 (Usage). Rows show bending standards for 180, 135, 90, and 135 degrees.

(注) Dは、曲げ内径

(2) 中間部

Table with 4 columns: 曲げ角度 (Bending angle), 折曲げ図 (Bending diagram), 全てのコンクリート (All concrete), 使用箇所 (Usage). Rows show bending standards for 90 degrees and below.

SD390を使用する場合は、( )内を適用する。

・フックを必要とする末端部を次に示す。
1) 異形鉄筋では管筋、あばら筋
2) 煙突に用いる鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
3) 一般階柱、梁 (基礎壁を除く) の出隅部分の重ね継手
・ひび割れ防止に用いる溶接金網及び鉄筋格子の定着長さは、支持部材の内表面から溶接金網及び鉄筋格子の最外端の距離までの距離とし、その値は標準間隔に50mmを加えた長さ以上、かつ150mm以上とする。

仕

棟

附

記

事

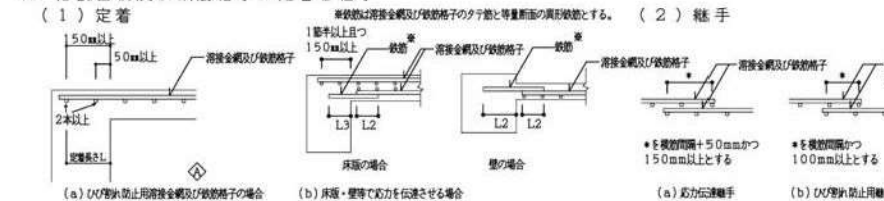
項

共通事項 (その2)

R-1-2

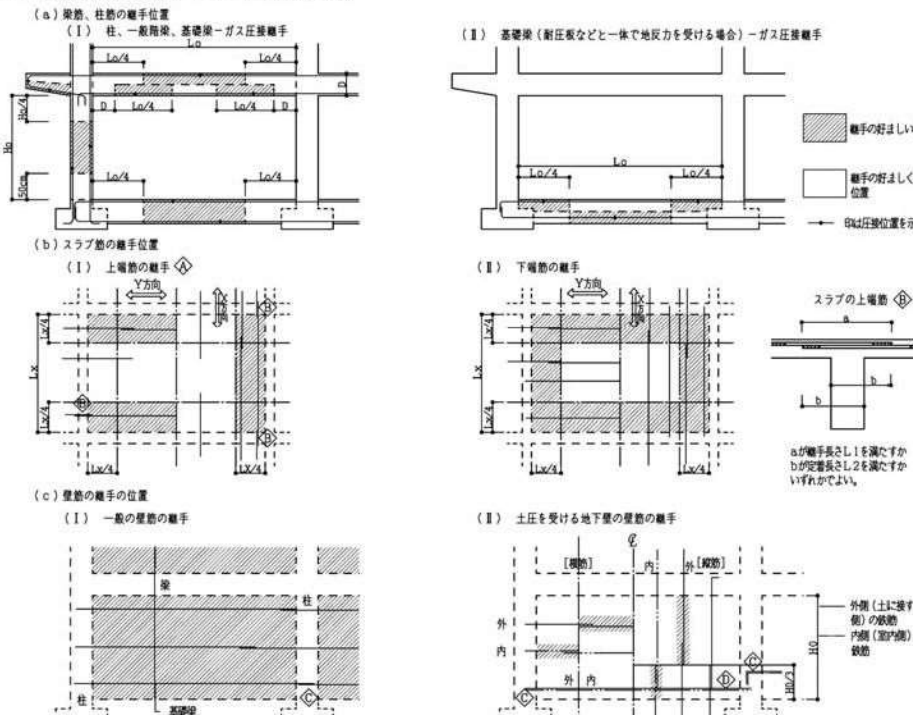
公共住宅標準詳細設計図集

2. 溶接金網及び鉄筋格子の定着と継手



公共住宅標準詳細設計図集

1. 鉄筋の継手位置 (ラーメン構造用)



・鉄筋の継手は原則として筋力の小さいところで、かつ弯矩はコンクリートに圧縮力が生じている部分に配する。また継手は一方所に集中することなく相互にずらして配することを原則とする。
・図示以外に鉄筋の継手を配する場合は監督員の承認を受ける。
・図はガス圧継手の場合を示している。なれ重ね継手の場合も原則的には本図に準じるとする。
・べた基礎のスラブ筋の場合は本図で上端部・下端部、下端部・上端部として扱うこととする。
・梁幅内にはスラブ筋の継手を設けないことが望ましい。継手を設ける場合は、柱列等に限りaが継手長さs1を満足すか、bが定着長さs2を満足すか、bを満足す場合は設けてよい。
・原則として梁の中には標準の継手は設けないこと。ただし標準の場合は1スラブ毎に柱に定着する事は差支えない。
・外縁鉄筋をH0/3以内で継ぐ場合は重ね長さをL1+5dとする。

仕

棟

附

記

事

項

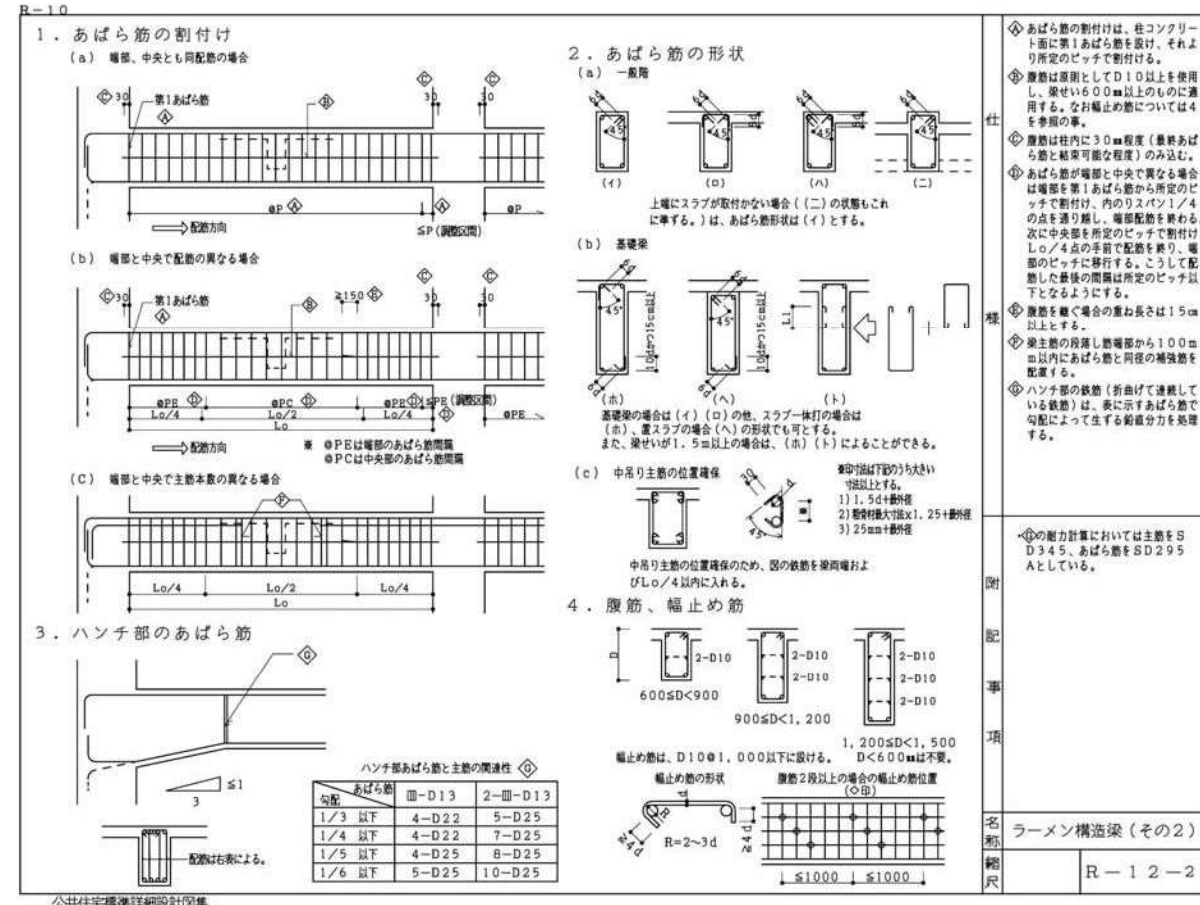
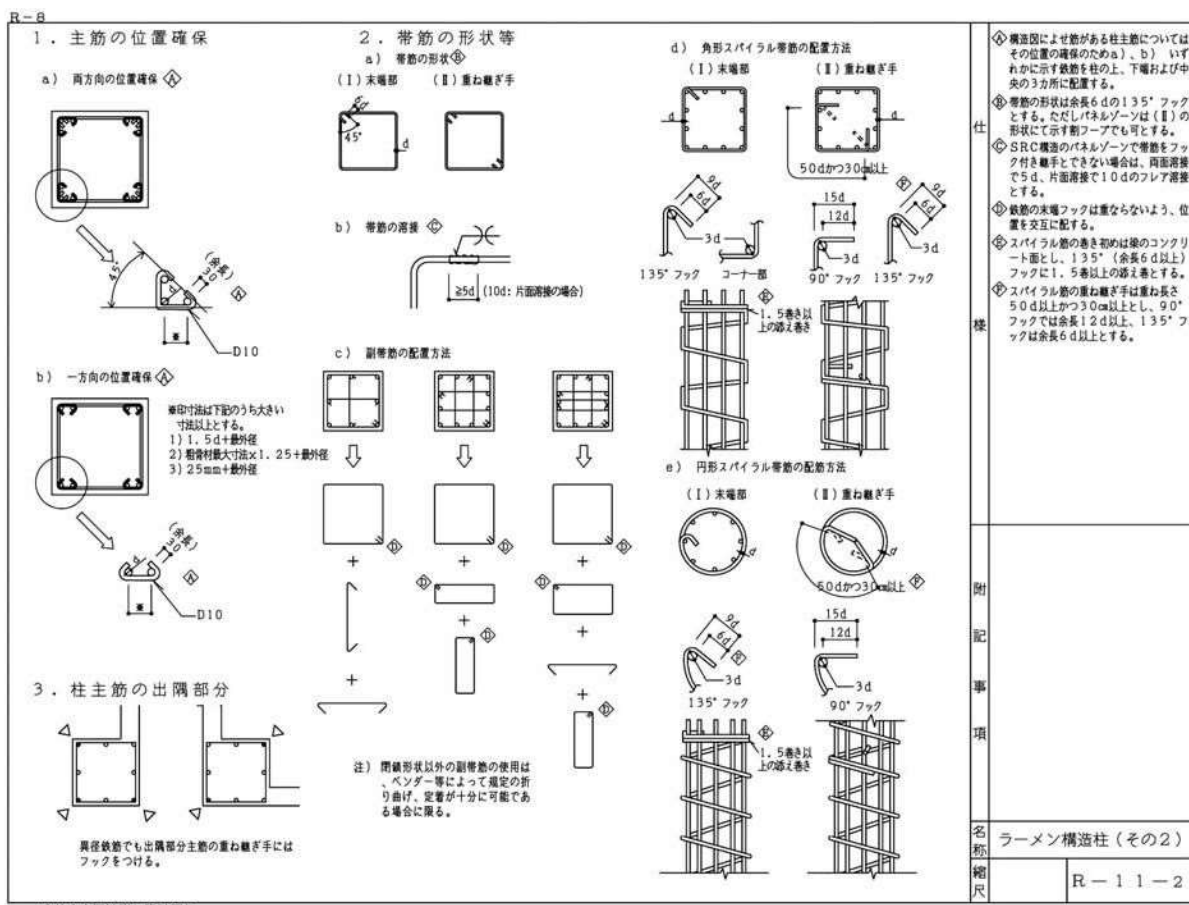
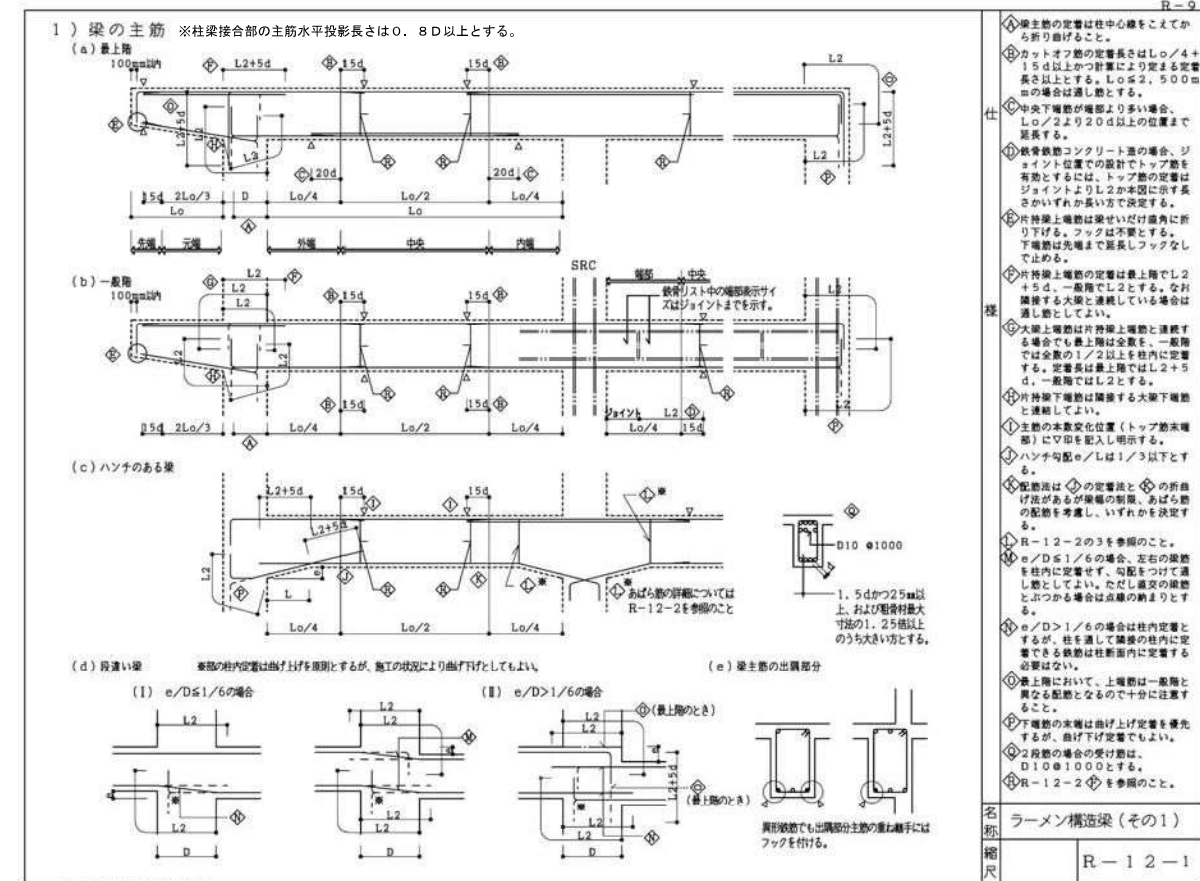
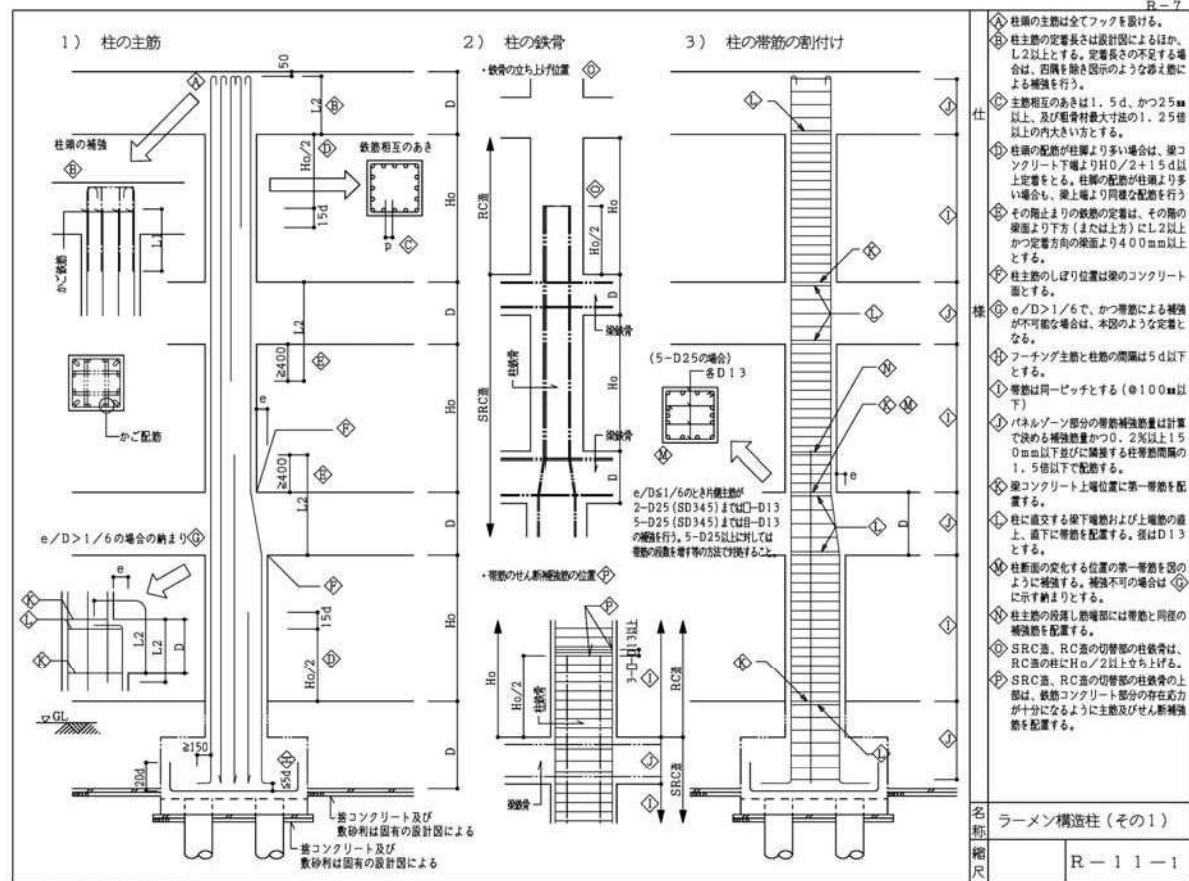
共通事項 (その4)

R-1-4

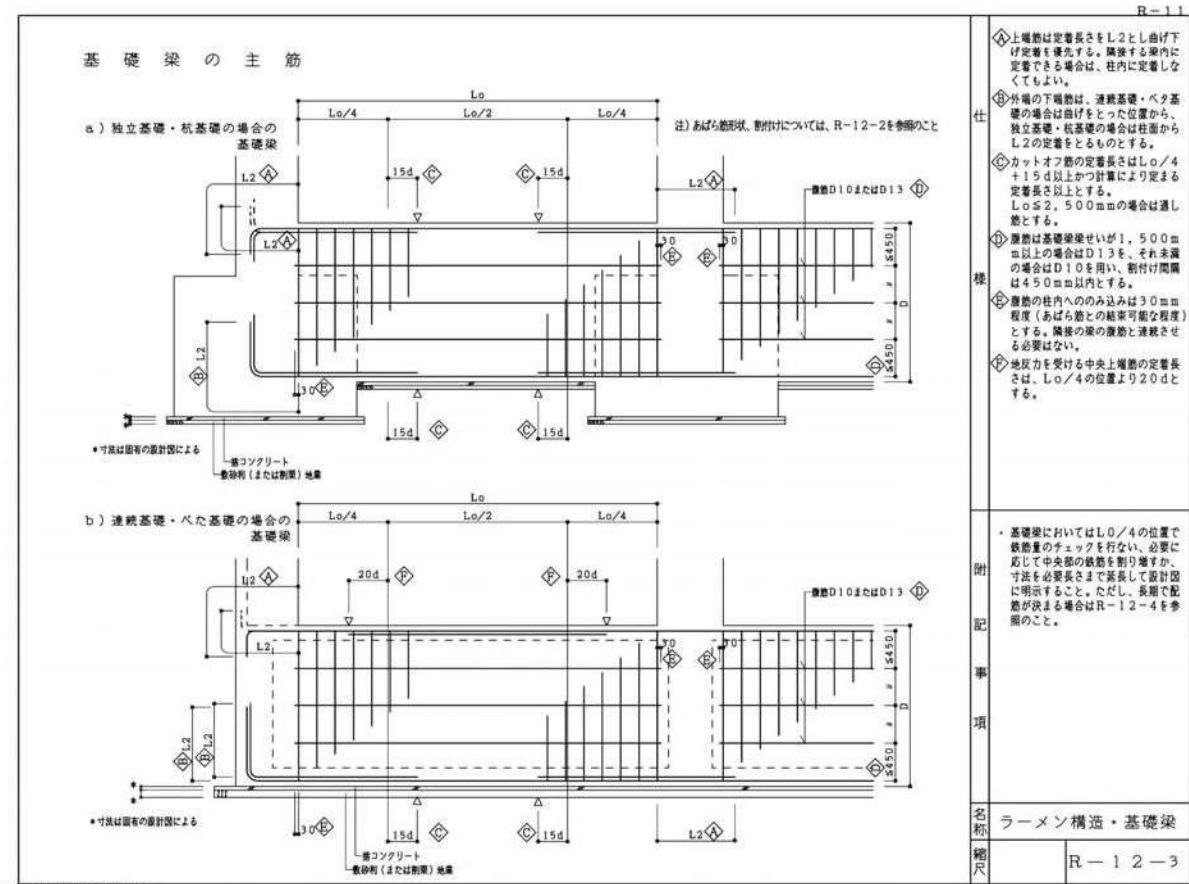
公共住宅標準詳細設計図集

Table with 4 columns: 株式会社 E R C デザイン, 株式会社 黒川建築事務所, 平針住宅建築工事 (第10工区), 図面番号. Includes details like 一級建築士登録第256338号, 一級建築士登録第100627号, 配筋基準図(1), and 愛知県建設部建築局公営住宅課.



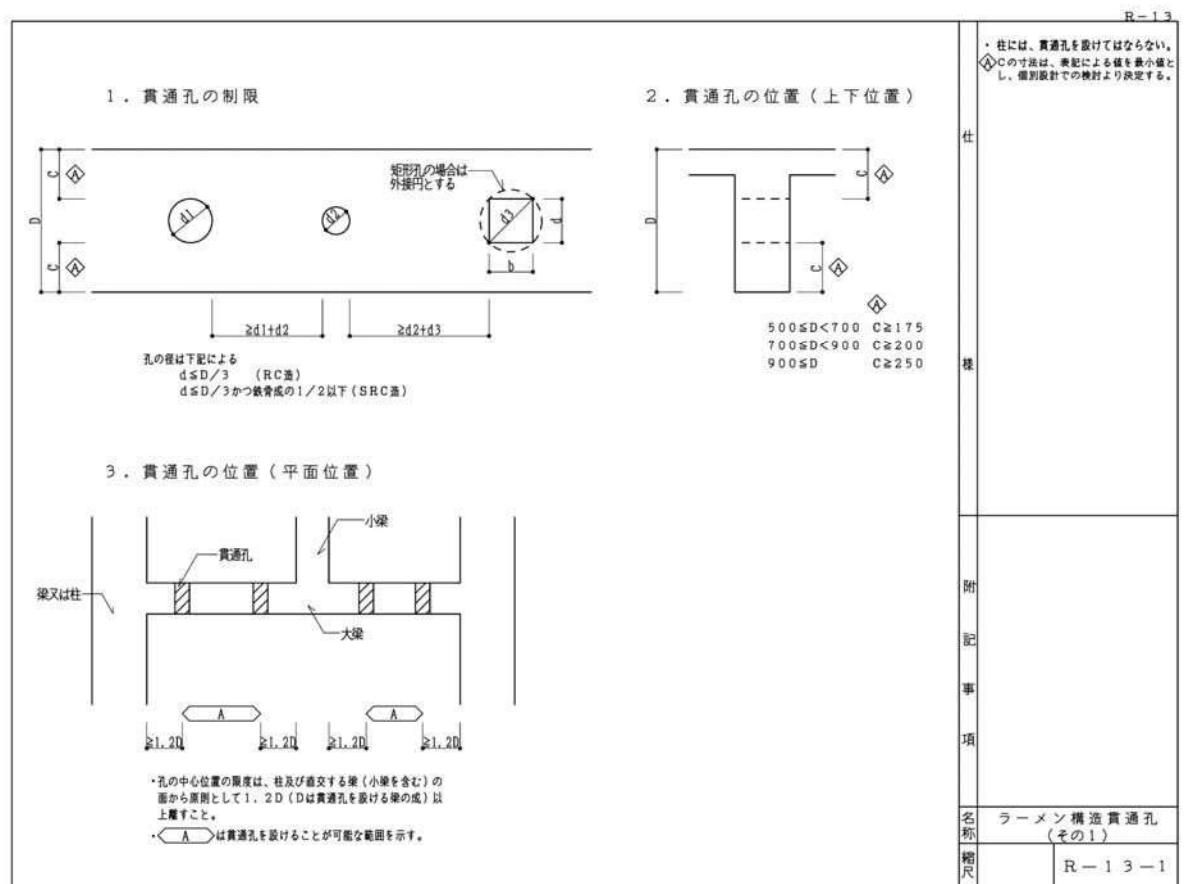


株式会社 E R C デザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事(第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第266338号 構造設計一級建築士登録番号 第3880号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	配筋基準図(2)	縮尺 A1 : - A3 : -	No.S02
検 査 者	製 図 者	設 計 者	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		平成29年 3月		



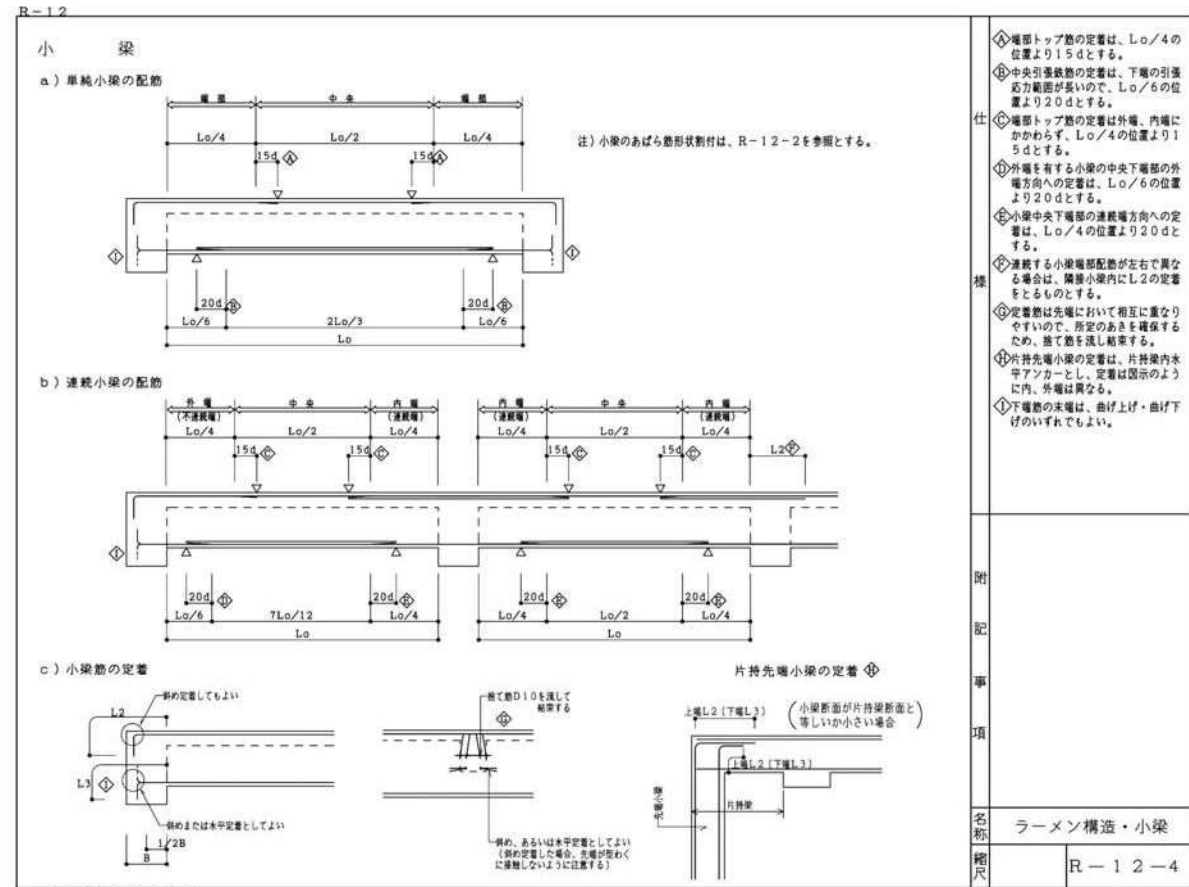
仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>上端筋は定着長さをL2とし曲げ下げ定着を要する。隣接する梁内に定着できる場合は、柱内に定着しなくともよい。</li> <li>外端の下端筋は、連続基礎・べた基礎の場合は曲げをとった位置から、独立基礎・杭基礎の場合は柱面からL2の定着をとるものとする。</li> <li>カットオフ筋の定着長さはL0/4+15d以上かつ計算により定まる定着長さ以上とする。L0≦2,500mmの場合は通し筋とする。</li> <li>梁筋は基礎梁せいぎ1,500mm以上の場合はD13を、それ未満の場合はD10を用い、新付材間隔は450mm以内とする。</li> <li>梁筋の柱内へのみ込みは30mm程度(あばら筋との結束可能程度)とする。隣接の梁の梁筋と連続させる必要はない。</li> <li>地反力を受ける中央上端筋の定着長さは、L0/4の位置より20dとする。</li> </ul>
附	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎梁においてはL0/4の位置で鉄筋量のチェックを行い、必要に応じて中央部の鉄筋を打ち増すか、寸法を必要長さまで延長して設計図に明示すること。ただし、長間で配筋が定まる場合はR-12-4を参照のこと。</li> </ul>
名	ラーメン構造・基礎梁
縮	R-12-3

公共住宅標準詳細設計図集



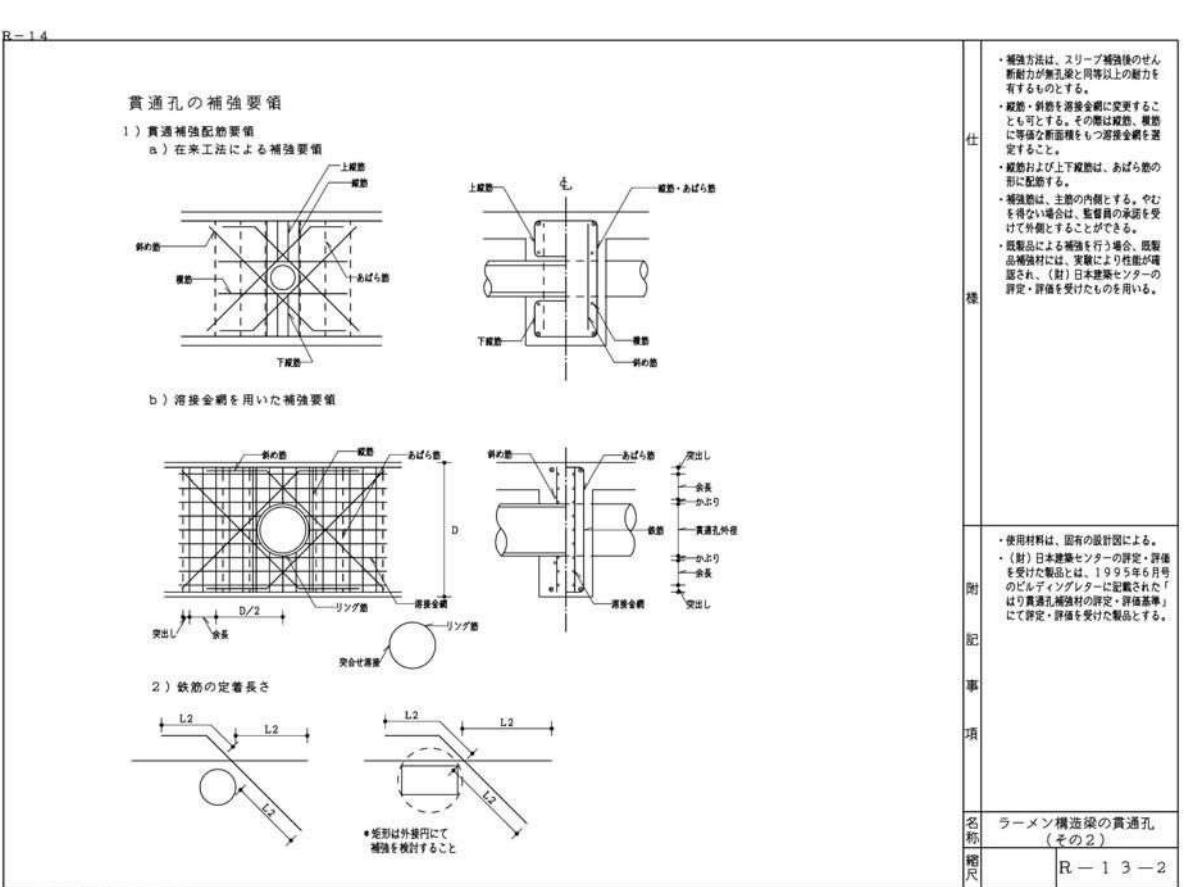
仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱には、貫通孔を設けてはならない。</li> <li>○の寸法は、実配による値を最小値とし、個別設計での検討より決定する。</li> </ul>
附	
名	ラーメン構造貫通孔(その1)
縮	R-13-1

公共住宅標準詳細設計図集



仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>端部トップ筋の定着は、L0/4の位置より15dとする。</li> <li>中央引張鉄筋の定着は、下端の引張筋力範囲が長いので、L0/6の位置より20dとする。</li> <li>端部トップ筋の定着は外端、内端にかかわらず、L0/4の位置より15dとする。</li> <li>外端を有する小梁の中央下部部の外端方向への定着は、L0/6の位置より20dとする。</li> <li>小梁中央下部部の連続端方向への定着は、L0/4の位置より20dとする。</li> <li>連続する小梁端部配筋が左右異なる場合は、隣接小梁内にL2の定着をとるものとする。</li> <li>定着筋は先端において相互に重なりやすいので、所定のあきを確保するため、接着剤を流し詰める。</li> <li>片持先端小梁の定着は、片持梁内水平アンカーとし、定着は図示のように、外端は異なる。</li> <li>下端筋の末端は、曲げ上げ・曲げ下げのいずれでもよい。</li> </ul>
附	
名	ラーメン構造・小梁
縮	R-12-4

公共住宅標準詳細設計図集



仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強方法は、スリブ補強体のせん断耐力が無孔梁と同等以上の耐力を有するものとする。</li> <li>縦筋・斜筋を連続金網に変更することも可とする。その際は縦筋、斜筋に等価な断面積をもつ連続金網を選定すること。</li> <li>縦筋および上下端筋は、あばら筋の部に配筋する。</li> <li>補強筋は、主筋の内側に配する。ゆびを得ない場合は、監督員の承認を受けて外側にすることが出来る。</li> <li>既製品による補強を行う場合、既製品補強材には、実配により性能が確認され、(財)日本建築センターの認定・評価を受けたものを用いる。</li> </ul>
附	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用材料は、図面の設計図による。</li> <li>(財)日本建築センターの認定・評価を受けた製品とは、1995年6月号のビルディングレターに記載された「はり貫通孔補強材の認定・評価基準」にて認定・評価を受けた製品とする。</li> </ul>
名	ラーメン構造梁の貫通孔(その2)
縮	R-13-2

公共住宅標準詳細設計図集

株式会社 E R Cデザイン	株式会社 黒川建築事務所	平針住宅建築工事(第10工区)		図面番号
一級建築士 登録第256338号 構造設計一級建築士登録番号 第3890号 代表取締役 池田寛彦	一級建築士 登録第100627号 代表取締役 黒川 高洋彦	配筋基準図(3)	縮尺 A1 : - A3 : -	No.S03
検 図	製 図	設 計	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		平成29年 3月		